

# 被ばく児の 治療・援護

## 医師2人(旧ソ連・ペラ)を秋大医学部に

チェルノブイリ原発事故

県は四月から、旧ソ連・ペラ(旧ソ連共和国)の医師二人を県立看護学校に秋田大医学部に招くことになった。チェルノブイリ原発事故後、被ばく児の治療に携わる医師、骨髄移植など日本の進んだ治療や診療技術を学んでもいい。県立看護学校に在籍する看護学生は、東洋住した県立看護学校に在籍しており、それ以外の国から受け入れるのは初めて。県内で昨年、同国に留学する医師の研修費を助成する募金活動が民間の手で行われ、今年度人材育成の旧ソ連への支援活動として行われる。

日本ユニセフ協会秋田友 学部がこの四月から外国人 たつて。留学期間は 一とを要する(内科と小児科)の会(佐々木正代表)が 研究員の受け入れを 年間。 秋田大では、血液疾患な 療法、骨髄移植など白血病

秋田大では、血液疾患な 療法、骨髄移植など白血病

秋田大では、血液疾患な 療法、骨髄移植など白血病

## 県人材育成で招致 骨髄移植など技術伝授

当初、ペラ(旧ソ連)側では、その後、同友の会の代表 六人の受け入れを要請して、それが、一回と聞いてこ

来月、日から展開

支援キャンペーンを展開す

金で医療器材や医薬品を 送るほか、医師や技術研 修生らの受け入れをハッ クアップする。また原発 は現在キャンペーン活動 の開催、ペラルシの子 供たちの作文や絵の交 換など、文化交流もすす

ら、県民が受け入れられた。でも、血液が専門の ロシアを助けた。人的な 支援医師を受けた。この話 師の二人に決まった。二人 中心になって、来月一日か ちの命を守り、健康を回 顧し、ペラルシの子 供たちの作文や絵の交 換など、文化交流もすす

支援キャンペーンを展開す  
「ペラルシ共和国」を呼 ぶ。ペラルシ共和国の 日本ユニセフ協会秋田友 「フキヤン」と呼ぶ け、白血病に苦しむ子供た 事故の写真展やパネル展 の開催、ペラルシの子 供たちの作文や絵の交 換など、文化交流もすす